



横浜市立相武山小学校

学校だより

11月号

令和2年10月30日

まちのみんなひとつになあれ

「子どもの良さを感じています」

副校長 恒吉 信一

高く澄んだ青空や朝晩の涼しい風に、ようやく本格的な秋の到来を感じるようになりました。さまざまな虫の声を耳にするのも、秋の夜長の楽しみです。

さて、毎朝少しの間ですが、登校してくる子ども達に「おはようございます！暑い？寒い？涼しい？どれ？」と声をかけています。ここ最近「寒いです！」という子が多い中、たまに「涼しい！」「暑いです！」「暑いよ」などと元気な返事。それをきっかけに、いきなり私に話し始める子ども達。その反応を見ていると、こちらも楽しくて仕方ないので、短い間に私もいわゆる「突っ込み」を入れたり、「何々？」と返したり。朝から笑顔があふれます。中には、私が以前、テレビ朝会で紹介した手話を使って「おはようございます」と返してくる子どもも。ほんの短い間ですが、子どもと関わっていると、何年経っても不思議なのですが、こちらも元気になります。

「フレイフレー赤組！」「フレイフレー白組！」「フレイフレーさぶやま！」応援団長を中心に、応援の音が響く中、熱く第45回運動会が開かれました。そこには、いつもと違う運動会がありました。徒競走では、いつもの年なら6コースで走るところ、隣の友達と距離をとるために1つおきに間を空け4コースで走りました。一生懸命に腕を振りながら走り切る子ども達の姿が眩しく、嬉しくなりました。団体演技に関しては、8月から9月にかけて、猛暑の影響で練習もままならず、ソーシャルディスタンスを取り、できるだけ大声を出さないという制約もある中、本番当日に、しっかりと全力で演技と向き合っている子ども達を見て、胸が熱くなりました。また、5、6年生による運動会運営のための係活動では、今年度初めて学校全体に関わる仕事となり、代表として責任をもって活動している姿が見られ感心しました。

私は小学校生活最後の運動会を終えたばかりの6年生の数名に声をかけてみました。すると「楽しい運動会だった♪」「いつもの運動会と違うけど貴重な体験ができたからよかった！」と。コロナ禍の状況を理解した上で発する子どものさわやかな発言を聞いて、自然と力をもらった瞬間でした。

子どもは元来、好奇心旺盛で、何でも知りたいし、楽しいことには全力で取り組みます。今年度は多くの行事が縮小、中止となりますが、そのような状況下だからこそ、さらに生きる力を育むために、できる範囲で、できるだけ大人も子どももお互いに刺激し合い、パワー全開の楽しい学校生活にしていくことが大切になってきます。これまでのご理解とご協力に感謝いたします。今後もよろしく願いいたします。